

## 令和2年度 第2回 富谷市協働のまちづくり推進審議会 会議録

日 時：令和2年10月20日（火） 15時00分から16時50分

場 所：富谷市役所3階 305会議室

参加者：富谷市協働のまちづくり推進審議会 出席委員8名 欠席委員2名

：富谷市 1名

：事務局 4名

### 1 開会（司会：市民協働課長）

### 2 会長挨拶

皆さんこんにちは。冒頭、一言だけご挨拶させていただきます。今日は仙台向山高校で、午前中に模擬講義を120分やってきましてこちらに来たのですけれども、模擬講義というのも大分変わってきていまして、私が一方的に話すというより、私が1時間話して、高校生が何チームかプレゼンをして、それに対してコメントをするというようになってきて、学習も大きく変わってきたなと思いました。そういう意味では、高校生も大学生も課題解決型学習というものが当たり前になってきまして、関心が非常に高まっているのですけれども、富谷も神戸市などが取り組んでいるアーバンイノベーションジャパンという行政の課題解決を協働で取り組むシステムなのですけれども、それにいち早く取り組んだということがさすがだなと思いましたし、今ガイドラインを作っていますけれども、具体的にこれが進んでいくのではないかなと力強く思っております。

今日は以下の3点を先にお話させていただきたいと思います。これまで審議会を開催しまして、その後わくわくミーティングを皆さんにも一緒に関わっていただきながら3回行いました。その後、事務局のほうで指針案の作成をお願いいたしました。皆さんも思っているかもしれませんが、すごく良い物が出来上がってきているのではないかなと思います。本当にありがとうございます。

2点目は、今日はこの指針案を元に中間案としてとりまとめていくという作業になります。

そして3点目なのですけれども、特にこの市民協働と言われるものを行う場合、ここまでしっかりやってきましたので、最後までじっくりやっていきたいということで、12月に市民協働セミナーを企画していただきまして、関わっていただいた皆様にお声がけをして、きちんとこのガイドラインが市民参加、協働で作るというプロセスを踏んでいただきましたことに心より感謝を申し上げたいと思います。ということで、我々ももうひと頑張りでございますので、どうぞよろしく願いいたします。

### 3 市長挨拶（若生市長）

皆さんこんにちは。本日は、第2回富谷市協働のまちづくり推進審議会ということで、大変お忙しい中、ご出席いただきましたことを心より御礼申し上げます。審議会委員の皆様におかれましては、日頃から市政全般で様々な形でご支援、ご指導、ご協力を賜っておりますことに改めて御礼申し上げます。また、委員の皆様方が多くがそれぞれのお立場で市民活動、市民協働に積極的にご参加いただいております。重ねて御礼を申し上げたいと思います。審議会の委員の皆様には、今日報告書を配

布しておりますが、8月28日と29日に、とみやわくわくミーティングを2日間、3回連続で開催させていただきましたが、委員の皆様にも3回それぞれにご参加いただき、大変お忙しい中ご参加いただいたことに改めて御礼申し上げます。

今年は新型コロナウイルス感染症の関係で、市民活動の何をするにも感染対策だったり規制がある中で、なかなか思うような活動ができなかったりという状況が続いていたわけですが、国の方針を受けて市のほうでも段階的にいわゆる施設の利用または色々なイベントの開催につきましても緩和をしながら進めてきたところがございます。ただ、やはりこのコロナ禍との戦いは長期戦になるわけですので、新しい生活様式、感染対策をしながら活動を行っていくということが課せられた状況でございます。そういった中で、今回独自事業として、コロナ対策支援事業の一つとして、市民活動応援セットということで、お申込みをいただいた市民活動団体の皆様方には非接触型体温計、消毒液、マスクの配布を今日からスタートしたところがございます。色々な形で、ご苦労がある中ではございますが、活動がなくなることによってそこに参加している人達が逆にやりがい、元気を失ってしまうことにつながってしまいますので、皆様方にはご苦労をおかけしますが、ぜひ引き続きお力添えをいただければと思います。

先ほど佐々木会長のお話にもありましたように、協働のまちづくり推進指針(案)について、これまでのご審議、またはわくわくミーティングでいただいたご意見を含めての指針案についてお示しいただいて、内容についてご意見をいただく会になるかと思っております。忌憚のないご意見をいただきながら、皆さんと共にまちづくりの指針案を作っていければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

※市長 退席

#### 4 審議事項

##### (1) (仮称) 富谷市協働のまちづくり推進指針(案)について

###### (佐々木会長)

それでは皆さんよろしくお願ひいたします。今日は議事は一つになります。このタイトルはまだ仮称ですが、富谷市協働のまちづくり推進指針案についてを議題にして議論をしていきたいと思っております。簡単に言うと、資料1をきちんと確認していくという作業になります。最初の頃からかなりバージョンアップしていると思っておりますけれども、ここまで持ってきていただいたことに事務局の皆様改めて敬意を表したいと思っております。これまでしっかり議論をしてきて、あとはわくわくミーティングでも市民の意見を取り入れてきたと思っております。今日ここで確認をして、その後また直して、今度はパブリックコメントという形で市民の皆様にかけるという段階になっていきます。ですので、その辺を意識しながら今日はきちんと進めていければ良いなと思っております。そして皆さんもお気づきのとおり事例の部分はまだ空白の部分があると思っておりますので、ごく小さいスペースで表現することは難しいのですが、情報提供の願ひがあると聞いていますのでご協力をお願ひしたいと思っております。それでは事務局のほうから指針案につきまして、主にバージョンアップした所を中心にご説明いただくと助かりますのでよろしくお願ひいたします。

###### (事務局)

それでは資料2と資料3を使ってご説明させていただきます。資料は事前に送付

させていただいておりますので、詳しい説明は割愛させていただきます。まず、タイトル、サブタイトルについてでございますが、こちらは資料3をご覧ください。こちらは、第1回審議会及びわくわくミーティングでいただいたご意見を基に案として作成いたしました。左がタイトル案、右がサブタイトル案となっております。案の下に皆さんからのご意見とキーワードを記載させていただいております。この中から、または本日新たなものを含めまして、何案かに絞っていただきまして、最終的には12月に予定している協働セミナーでわくわくミーティングの参加者の皆様と審議会の委員の皆様を選んでいただければと思っておりますので、ご審議のほどお願いいたします。

それでは、資料2をお願いいたします。修正の番号で読ませていただきたいのですが、修正No.①の表紙のイラストでございます。こちらは村上委員のご意見を踏まえてSDGsのアイコンについて、1から16のアイコンを追加しております。原案よりもカラフルになり、これに吹き出しを入れるとにぎやかすぎるのではないかとということで、吹き出しを取らせていただいております。

続きまして、3ページをご覧ください。修正No.⑬をご覧ください。こちらは市議会の一般質問において、修正前の「ウ.総合計画において市が目指している方針を市民が共有し、活動につなげていくこと。」という部分が市の枠組みに市民の活動をはめこむように捉えられる表現となっているので、工夫が必要とのご意見があったことを踏まえまして、修正後の部分で、「総合計画に示されている富谷市のまちづくり及び将来像を市民も共有し、活動に生かしていくこと。」と表現を整理したものでございます。

次に4ページをお願いいたします。修正No.⑮をご覧ください。こちらはとみやわくわくミーティングでの意見を踏まえ、具体的な協働の事例案をとということで、町内会による環境美化活動のほか6つの事例を入れさせていただいております。写真③の弁当配食サービスについては、これから写真が入る予定でございます。

次に5ページをお願いします。こちらは修正No.⑰ということで、協働のかたちについて、具体的な事例案を明記しております。こちらにはページの都合上、4件を載せさせていただいておりますが、審議会やわくわくミーティングにおいて、事例集についてのご意見がありましたので、より多くの方に見ていただけるよう到来年度から市民活動団体紹介ということで広報への定期掲載を予定しております。掲載後に市のホームページにも掲載していければと考えております。こちらの部分は先ほど佐々木会長からもお話していただきましたが、各事例に関わっていただいている委員の皆様、取組内容や協働の効果の部分について情報提供いただきながら、原稿の作成にご協力をお願いしたいと考えておりましたので、審議会終了後に個別にお願いさせていただければと思います。

次に7ページをお願いします。こちらは審議会とわくわくミーティングなどの意見を踏まえまして、協働の進め方の各段階ごとのポイントを入れさせていただいております。こちらは項目等も含めてご審議いただければと思います。

次に9ページをお願いいたします。修正No.⑲をご覧ください。市と協働する場合の活動範囲のDの部分で一番下に事業委託とあります。こちらは事業委託の範囲が不明確であることから、「事業者への委託は除く」を追加しております。これは事業者以外の市民活動団体や公益法人などの主体への委託を指しています。説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(佐々木会長)

ありがとうございました。それではこれから議論をしていきたいのですけれども、14ページまでしかないので、一つ一つ私のほうで確認をやっていきたいと思えます。まず資料1の表紙があるわけですが、この表紙につきましては、タイトルは、やはり全員で決めたほうが良いのではないかという意見があり、私自身もそう思っております。12月に市民協働セミナーがあります。私も一昨年お話をさせていただきましたが、今年は大勢を集めることができないので、これまで関わった方にお集まりをいただいて、タイトルは最後にみんなで決めるということで、今資料3にあるものをそのまま出しても良いですし、もう少し絞って、これのどれかを投票で選ぶとかではなくて、議論をして決めるというプロセスを踏まさせていただきたいということで事務局に相談をしたらご快諾をいただいたということになっております。今のところ12月22日の午後なので、皆さん空けておいていただいて、ひと足早いクリスマスプレゼントということで、ここできちんと決めていきたいと思えます。こういうのはライブ感があって良いですね。これについてはライブで、現場でやりますので、皆さんも緊張感を持っていただいて、そこで一つにするという作業が重要だと思います。あとは協働ガイドラインということで、指針という表現が重いのではないかということで、最初はルールだったのがガイドラインとなってきましたので、道のりを示すという意味ではここは適切な言葉がついているのではないかなと思えます。あとは勢いを感じさせるものである必要がありますし、中身との整合性ですね。本を買って読むと、タイトルを見て買うのですが、中身と違うという時がありますが、タイトルで手に取ってもらうというのは大事なので、その辺りの整合性だと思います。開いていただきますと、ガイドラインの目的、ガイドラインのねらいと書いていますので、個別に皆さんに一言ずつお願いしますが、この辺も文言を整えていただいて、「ピヨ」と書いてあった時代が懐かしいなと思えますけれども、ある程度収まってきたのかなと思えます。その後の所は特に変わってなくて、市の現状と市民の活動の現状と特にこれから求められることという所が、これまで議論が出てきて、やはり市側の思いというのがやや強く反映されていた所を調整していただいたということになっていると思えます。この部分は皆さんももしまだ議論の余地がある場合はご指摘いただければと思います。4ページ、5ページは特に総合計画の所を直していったということなのですが、4ページの②で、これは私が言ったことかもしれませんが持続可能な活動を目指していかないと、単発の活動がどんどん出ては消えるということで、富谷には合わないのかなと思っております。5ページの所は、わくわくミーティングでこの六つの事例が挙げたということで、富谷らしいものが挙がってきていると思えます。私が気になったのは右下の「地域・学校・家庭をつなぐ取組」がもう少しわかる表現があればと。「子ども食堂」や「大運動会」と書かれているとわかるのですが、この写真はこまを回しているように見えます。皆さんもこういった気になった所をご指摘いただければと思います。6ページ、7ページとしては、とみやインパクトという言葉を作ったわけですが、その解説を入れていただきました。これでわかるかなと思えますし、まだわかりにくい場合はアドバイスをいただければと思います。8ページ、9ページに事例が出てきて、協働が1990年代から進んできて、未だに協働というものがわかりにくいと言われているのが現実という中で、具体的に示すと市民の疑問が解決されるということもありまして、反映していただいたのですが、ここは空白になっています。

事前にどのくらいの文量で掲載するのかと聞いたところ、取組内容で120から140字ぐらいで、協働の効果で80字ぐらいということでした。成田地区とはちみつプロジェクトと富谷茶プロジェクトの三つについて、皆さんから情報提供を個別にお願いするというので、120字というのと逆に難しいと思います。ツイッターで1回発信するのが140字と言われていまして、140字ですと学生たちもひと呼吸で書けるのですけれども、120字だとけっこう難しいので、情報を投げていただいて事務局のほうでまとめていただくという形になりまして、今回素晴らしいなと思ったのは今後市報を使って、市民活動取組紹介ということがありますので、ここでは入口がありつつ、市報でも紹介されますので、具体的に市民の方が協働とは何ですかといった時に、そちらに振ればガイドラインと連携して使えるのではないかとということで、来年度の市報の調整をしていただきましてありがとうございました。あとは協働の進め方についてはここにいる委員の皆さんのアドバイスが反映されたと思います。ビフォーアフターで比べると大きく変わったと思いますし、色々なテキストにも書いていますけれども、皆さんの言葉で作ってくれて、「きっかけ」「土台づくり」といったタグが付いていますけれども、こういった所も非常に素晴らしいと思っていますし、一番最後に循環と書いてもらいました。これをいかに循環させていくかということで、特定の活動だけではなくて地域の文化や雰囲気や財産、地域ブランドや地域デザインということで学びの科目では整っていますけれども、そういう所も意識して、作っている事務局の皆さんもきちんとイメージできたのではないかと思います。最後に協働を進めるうえで配慮することとありまして、ここは少し空白があるので、もし何かあれば加える余地はあると思います。12ページ、13ページ、14ページも文言を変えて、かなり整えていただいたとっております。今日は今から皆さんにマイクを回しますので一言ずついただいて、修正を加えてパブリックコメントへ向かっていきたいと思っています。では菅野委員から北野澤委員、平岡委員と流してよろしいでしょうか。

#### (菅野委員)

よろしくお願ひします。この送られてきた資料を見させていただいて、今確認していただきましたが、表紙のインパクトが大事だというお話は8月のわくわくミーティングの際もあったので、すごくカラフルになって文言もわかりやすくなってSDGsのロゴも追加されたということで、個人的にはインパクトが増した気がしたので良いと思いました。10ページの協働の進め方の所も左上にタグが付いて、よりわかりやすくなっているのも市民の皆様にも理解していただくのがより簡単になったのかなと思いました。あとはわくわくミーティングで意見をもらって事務局の方に修正していただいたのでありがとうございました。事例の所で、私は富谷塾生としても活動させていただいているので、もし取組内容とかで協力できることがあれば何か意見を出したいと思うのでよろしくお願ひします。

#### (佐々木会長)

ありがとうございます。菅野委員は学生の委員ということでこれまで関わったので、ぜひ最後まで関わって、やり切るといことが大事なので、少しでも関わる余地があれば積極的に事務局のほうに申し出てほしいと思います。

### (北野澤委員)

まず、私もこの資料が送られてきた時に、お、ちょっと違うなという印象を受けまして、一番最初にいただいた時の資料が、私も会社の関係でシンクタンクともお付き合いがあった中で、いかにもどこかのシンクタンクが作った資料に似ているなという第一印象でした。それが今回送られてきたものについては、俗にいう素人目の一般市民の方々が見ても、まず興味が持てるものになったかなと思ってずっと進めていくのですが、12ページになると急に色合いも形も真面目になってしまっているなど。物自体は真面目なものなのだろうと思いますが、今までのブルベリッ娘とブルピヨではないのですが、そこの所から少し堅くなってきたかなという印象があります。あとは、言葉の使い方で趣味の問題だと思うのですが、3ページの(3)①市民の意識を上げていくことが必要です。のアの所で、「市でできること」、「市民ができること」とあるのですが、個人的には「市ができること」、「市民ができること」という同じ言葉で、対等の立場での文章が個人的には好きです。資料2の対照表もまとめるのに苦労しただろうなと思います。

### (佐々木会長)

3ページの(3)の所は気をつけなくてはいけない部分ですので、最後に議論をしていきましょう。では増田委員お願いします。

### (増田委員)

私もこれが送られてきた時に、すごく良い物にしたいですというお話を高橋課長さんからもお聞きしていたのですが、本当にその気持ちがここに集約されたなと思ってとても感動いたしました。大体の中身は、細かい所は皆さんが気づいてくださった通りで、言葉などの小さい所はあるかもしれませんが、全体的には良いのではないかなと思いました。ただ、私が一つふと思ったことなののですが、こうやって市民協働課の方達とがっちりやっているの、ついついこれは市民協働課が背負ってやっていることという風に私も思ってしまっているのですが、これはどの課の方達もこうやって市民の方達とやれる所は手を組んでやっていきたいと思いますというものだと思うのです。市民協働という言葉が結構出てくるので、読んだ方達は市民協働課がこういうことをやっていこうとしているのだなという風にも取られかねないかなと。どの課でも、私も子育て支援課だったり長寿福祉課だったりその時のイベントによって関わる課が違うので、富谷市とは書いてあるのですが、どこであっても協働していく姿勢を持ってということが伝わるのがどこかに入ると良いのかなと思います。それがどこにどう入ったら良いのか、ちょっとそこまで私も考えあぐねていたのですが、どうしても市民協働課のイメージ、市民協働課が市民の人とやっていこうとしているのだなとだけ取られないような工夫をいただきたいということです。

もう一つが11ページになるのですが、(4)の④はすごく大事な所で、お互いの特性の違いという所、私もこれを自分の活動ですごく大事にしているのですが、特性という言葉がちょっと違うような気がして、では何の違いをみんなとやる時に意識しているかといったらその人の今の忙しさという事情だったり、家で介護しているとか子どもが受験だとか、そういうものは特性とは言わない気がするのです。特性という言葉も入れて良いと思うのですが、事情でしょうかね。その人がそれぞれ抱えている今の現状というものを認め合うことがすごく大事だと

思うので、それがわかるような表現になると良いかなと。私が気になったのはこの2点です。

**(佐々木会長)**

1点目は何でしたか。

**(増田委員)**

1点目は市民協働課だけでやっているわけではないという点です。

**(佐々木会長)**

1点目は具体的にどうこうというわけではないのですが、14ページの①のイに市役所内の連携と風とおしのよい活気ある職場風土の構築とありますが、この辺の所に加えられるのであれば市役所全体で協働に取り組むというようなことも入れていったほうが、市役所内の連携となっているのですが、「市役所全体で協働を進め、風とおしのよい活気ある職場風土の構築」とする手はあるのかなと今ふと考えておりました。

あとは2点目の特性という表現ですね。特性とはどういうことかということ、その人の天賦の才みたいな意味もあるので確かに違うのかなと。事情という言葉もありましたが、事情が良いか私も今語彙が出てこないのですが、適切な漢字を考えていければと思います。確かに事情ということ子育てで忙しいとか、時にネガティブなものも含めてだと思うのですが、その辺を踏まえたうえで尊重してということにつながっていきますので、少しここは考えていきたいと思います。

**(村上委員)**

皆さんが言ったとおり表紙が大変好みでございます。SDGsの表紙がカラフルな感じなので、それに合わせてこのガイドラインもこのようになったというのはとても進化したなと思いました。皆さんもおっしゃっていたので、3ページの(3)これから求められることのアの書き方は分けないでというか、そこの言い方が私も気になりました。「市でできること、市民ができること」の言い回しはもっと良いものがないかなと。ちょっと自分では思いつかなかったのですが、そこが気になる所です。あとは、色々な言葉尻が優しくなったなという印象を受けました。14ページの①多様な主体による協働を推進するための体制のイに風とおしのよいという表現が出てくるのですが、風とおしのよいという部分が私は少しわかりにくかったのです。もう少しはっきりとさせたほうが良い所でもあり、実際私は市役所に来させていただいて、協働をやっている立ち位置にいて、富谷市はもう協働をとっくにやっているのです、やっている者として感じる事がいっぱいあります。増田委員が言っていたように全体の課が協働をそれぞれやっていると思うので、これからやるのではなく既にやっているということをもっとアピールしても良いような感じもしました。ほかにはこんな良い市はないのではないかと感じています。色々な課で一緒にまちづくりを進めていけるような印象を受けています。

**(佐々木会長)**

3ページの(3)は集中して議論していければと思いますし、14ページの①のイは自分のことなので言いにくく書いていると思うのですが、言いたいことが言い

合えるような、ということだと思います。なかなか行政の市民協働は難しい所があって、行政側として踏み出せない所があるのです。ここは行政できっちりやらなければならないと。それ以外の部分でゆるやかにやっていくということなのだと思います。あとは役所内での協働もなかなか難しく、私も色々な協働の講演をすると、行政職員向けにお話をするのですけれども、「ちょうない」の協働と言った時に町の中の協働をイメージするのですが、一番難しいのが庁舎の中の協働が大変なのですと結構言われるのです。やはり近い関係だから難しいということがあると思うのですけれども、この辺は事務局にお任せするしかない所ですが、色々考えてみて良い案が浮かべば変えても良いと思います。ただ、私も行政というものを10から20年見ていますけれども、20年前と比べると全く違うということは皆さんも実感しているのではないかと思います。

#### (平岡委員)

一番思ったことは、14ページの(2)推進に向けた取組の①ア協働のまちづくり推進審議会の設置。これは市民協働課を含めて私達審議会のメンバーなのですが、これを最初に持ってくると、どこかにこれを設置してこれから協働のまちづくりを行政と一緒にやっていきますということを出せば良いと思います。私も委員としてもありますし、色々な立場で市にしょっちゅう出ているので理解はあるのですが、もし私がまるっきりわからなくてこの指針をもらっても、市民協働課で作ったのではなく、審議会を設置して最初から一緒にやってきたのですよという所をもう少し出すと良いのかなと思いました。もう一点、先ほどから出ているように「協働」とはという所で色々身近な協働が出ていますが、クリーン作戦も協働だと思うので、考えていただきたいと思います。町内会による環境美化活動も良いのですが、クリーン作戦は年に2回行って、参加する方も多いので、知らない方はいないのではないかと思います。もう一つ、街かどカフェは良いと思うのですけれども、一部のゆとりすとクラブではなくて、ゆとりすとの全体交流会とか、もっと身近にあるものを入れたら良いのかなと思います。はちみつプロジェクトなどももちろん皆さん知っているのですが、クリーン作戦のような、私も一つは参加しているような例があると、協働にみんな参加しているという気持ちになるのかなと思いました。あとは写真で、先ほど北野澤委員からも話がありましたが、カラフルで見やすい、私は文章を読む前にまず写真を見るので、写真を所々に入れていただくとありがたいと思います。その2点が今思った所です。

#### (佐々木会長)

大体議論の論点が絞れてきますが、14ページの(2)の①の部分ですよね。この協働のまちづくり推進審議会の設置というものの文言を設置ではなくて、設置という作って終わりということなのですが、ほかが構築、実施、強化、検討となっているのでその辺を変えることと、場合によっては町内会による環境美化活動の写真を、もし写真があればもう少し顔が見えるような活動に差し替えるということもありなのかなと思いました。今の写真は、環境美化活動といっても子ども達が参加できるものというよりは草刈り機が写っていたりと地域のプロという感じがします。もう少しハードルの低いものに変えても良いのかなと思いました。具体的にはクリーン作戦という意見もいただきました。

### (佐藤(怜)委員)

私もこれを見て、表紙も前の物と比較して、みんなに手に取ってもらいやすい、目に付く表紙になって良いなと思いました。目次の所を見てもわかるのですけれども、ガイドラインと統一して表記されていることがわかりやすいということで、わくわくミーティングに参加した時、直接市民の方とお話した時に私達の視点と全然違って、そもそも協働とは何なのかという所からスタートしたお話し合いでもあったのですけれども、このようなカタカナ表記だとわかりやすいよとか入りやすいよということが反映されていて、わかりやすいのではないかなと思いました。前回、市からの目線が表記的に上から目線の表記があるという所も対等な表現に変わってきているのではないかなと感じました。個人的には10ページの協働の進め方については、菅野委員も言っていたらっしゃったのですが、タグ付けしたりとか、より具体的に書いてあるので、市民の方も協働の進め方が前回の物だとよくわからないということだったのですけれども、これを見るとすごくイメージしやすいのかなと思いました。あとは事例をとにかくたくさん載せたほうがイメージしやすいという意見もいただいていたので、こうやって写真を載せるということは、こういうことも協働というのだな、協働がよくわからなかったけれど写真で活動を見ればこれもそうなのだとわかるかなと思いました。わくわくミーティングでは、情報の取り方、情報はどこからという情報という文言が出てくるのですけれども、それが具体的にわからないという所があったので、少しでもヒントになる文言があれば良いのかなと思いました。ただ全体的に報告書も含めてすごく見やすく、作っていただいております。

### (佐々木会長)

一番最後の文言というのはどういうことでしたか。

### (佐藤(怜)委員)

情報についてで、情報はたくさん色々な所に出てくると思うのですね。広報、ホームページ、SNSで情報収集してみると。ただ、その情報に行き着くまでがわからない、漠然としているということをわくわくミーティングで参加した市民の方から言われたので、広報などで周知しますと謳ってはいるものの、じゃあ市役所だけに聞けば良いのかなとか、その辺りがわからないというのがいただいた声だったので、指針案に反映するかは別として、そういった意見がありました。

### (佐々木会長)

その部分は非常に重要だと思います。何か始めたいと思う時に情報にどうやってアクセスするかを考えるのですね。案外うまくいく人というのは、タイトルにつながりという言葉が入っていますけれども、ソーシャルキャピタルとも言われますが、人脈があつてつながって、その人からアドバイスをもらったり、人づてに何人かから聞いていくという人のほうが、活動が豊かになるということは証明されているところです。現実問題として市役所に聞きに行くというのは最終手段で、なかなかそこから広がらないというのは現状なので、私もその通りだなと思いつつ、名言が思い浮かばないのですが、確かに現実はそのようなのです。10ページの2つ目の吹き出しにはお互いを知り、つながる場に参加してみるとあるのですけれども、本当にこの入口の部分がすごく大事なので、この辺は私も考えてみたいと思います。やはり

ちょっとしたきっかけが欲しいのですよね。漠然と何かやりたいと思っている時に、思い切りどんと押されなくても、市役所に行ってしまうとできるかできないかという回答が出てしまう場合があるのですが、実はそこまでの支援は欲しくなくて、ちょっとこの辺に行ってみたらとか、ちょっとあれ聞いてみたらとか、背中への押し方なのですけども、人によってはそのほうが良いかもしれませんが、ちょっと触れるくらいのアドバイスは重要なのですね。この辺はもう少し考えてみたいと思います。では最後に日諸委員よろしく願いたします。

#### (日諸委員)

この資料が届いて一番最初に表紙を見た時に、カラフルですごい、楽しそうでわくわくだなと思いました。今皆さんがおっしゃっていた通りなのですけども、1ページの最後の所に、前回増田委員がおっしゃってくださった誰もが住みたくなる、そして将来にわたって住み続けたくなる、この文言を読んだ時に、これで完成だなと、この文言が一番気に入って、前回の審議がみんな入っているなどここを読んで思いました。中身は皆さんがおっしゃったことがそうだなと思って伺っていましたが、私が見た所は細かい所で、5ページの、先ほど佐々木会長がおっしゃっていた地域・学校・家庭をつなぐ取組は、もしかして異世代交流の場などを含めての取組なのかなと思いました。あとは10ページの協働の進め方、これは素晴らしく完璧だなと思って読ませていただきました。すごくわかりやすいです。私もわくわくミーティングで市民の方のご意見を聞いてすごく勉強になりました。それらが網羅されて、意見などを踏襲しているなどと思って拝見しました。13ページなのですけども、④とみやを愛しと書いてあるのですが、ここはあえて平仮名にしたのか、漢字がよろしいのか、その下の子どもたちに富谷のよさを感じてもらいたいという部分の富谷は漢字なので、ここは一緒のほうが良いのかあえて別にしたのか、どうかなと思って読んでいました。14ページの①のカで指針の整備とあるのですが、先ほどガイドラインに統一したということで、ここはガイドラインとしなくて良いのかなと思いました。③のオはちょっと長いので、公共施設をの所に点を付けると読みやすいかなと思って拝見していました。中身は、資料をいただいて、修正前修正後と懇切丁寧にやったださって、素晴らしい資料だなと拝見しておりました。

#### (佐々木会長)

ありがとうございます。いくつかいただいてどれもその通りだなと思って聞いていました。今の意見を聞いて協働というのはどの部署でもやっているというより、すべての土台になるものなのですよ。今聞いていてふと思ったのが市役所の中で協働を進めるのも大事なのですが、すべての土台となるものなのだという事はメモしていただくと、やはり各部署で進めるということよりも、そもそも各部署で進めるとお互いがつながっていないので、一番下に建物の基礎のようにどんとあるのが協働なのだと思うのです。その辺りが最後の所に入っていくほうが、市役所で無理に連携というのは難しいと思うのです。それぞれのセクションで責任を持ってやっているということもあるので、その責任を横流しされても市民は困る時があります。そういう意味では無理に行政内の協働を進めるというよりは、基礎となる土台の所の協働があるのだということが大事だと日諸委員の話聞いて思ったところです。あとは私も気になったのですが5ページの地域・学校・家庭をつなぐ取組が、これだけちょっとイメージがつかないのです。

**(増田委員)**

この事業はこういう名前の取組なのです。地域・学校・家庭をつなぐ取組と言って、地域コーディネーターさんがいて、地域の方と学校をつなぐ取組で、これが各地区であるものです。これはお年寄りの方に昔遊びを覚えてもらうという場面だと思うのですが、それ以外にも戦争体験を聞くとかミシンのお手伝いをさせていただくとか、色々な取組があるものなのです。

**(佐々木会長)**

名詞なのであれば、その上の街かどカフェに括弧がついているので括弧をつけてしまうという手もありますね。

**(平岡委員)**

世代交流ですよ。

**(増田委員)**

世代と学校と地域をつなぐ、まさにこの写真のような取組なのです。

**(佐々木会長)**

特に家庭をつなぐ取組ってどうやるのだろうかというのは気になります。難しいですよ。ちょっと私も気になったのですが、今日諸委員からいくつかあった中で13ページのとみやを愛しという所ですね。平仮名になっている所は漢字でも良いのかなと思いましたが、時代の変化に対応した指針の整備という14ページの所も指針をガイドラインにしてしまうほうが良いと思ったところです。ということはこれを作りますけれども、いずれ改編しますよということも意味すると思いますので、良いなと思いましたが。あとは協働が土台にあるということがどこかに盛り込めると良いなと思いましたが。一旦ここで休憩して、最後に重点議論をして終わりにしていきますが、表紙を皆様からお褒めいただき、良いなと思いましたが。重箱の隅をつくとすれば、「り」が3つあるので、上の所は変えたほうが良いのではないかと思います。タイトルは「つながり 楽しむ 手づくりのまちづくり」の部分をみんなで考えていくということで、たたき台としてはこれで良いのかなと思います。

ではとりあえず一巡しましたので、16時10分まで休憩を取りまして、最後に特に議論しておいたほうが良い所は、パブリックコメントを出す時に必ず皆さんからコメントがあるのが3ページの(3)だと思います。ここの所を議論して、あとは14ページの①、ここは行政にお願いするしかないと思うので、3ページの(3)について議論をしましょう。

**※5分間の休憩**

**(佐々木会長)**

私も休憩時間中に少し考えたのですが、3ページの(3)の所で、具体的に出したのはアの部分です。市でできること、市民ができることと分ける必要はないのではないかとということで、一緒にできることもあって、それが協働では大事なのですが、市ができること、市民ができることのように、ここを変えられないかという意見がありまして、おそらく持ち帰りになると思いますが、先ほどそれぞれの事

情というお話もありましたけれども、このままいくと、市は市でやることと、市民は市民でできることをちゃんと選別しなさいと捉えることもできてしまうので、本当に言いたいことは違うと思います。

**(平岡委員)**

これは言い切ると、市民のほうは市でやってはだめというような形になるので、市と市民がそれぞれできるという感じのほうの方が柔らかいのかなと。市で絶対にできること、市民ができること、となると完全に決めつけてしまうので、市と市民がそれぞれにできるみたいな感じが良いのかなと思います。

**(佐々木会長)**

書いた裏側を推測すると、全部市に任せないで、市民ができることは市民でやりましょうということなのですが、その表現は非常に難しく、今平岡委員がお話してくれたことを踏まえて、本当は市民ができることをみんなで理解していくことと書きたいのしょうけれども、市がという言葉も入ってきているので、そういう意味では、(3)の①で市民の意識を高めていくことが必要ですという部分と合わせるとちょっと合わなくなってくるのですね。どちらかという、市役所の方から市民もっと頑張りなさいと捉えられてしまう恐れもあるなど今聞いていて思いました。場合によっては協働の意識を高めていくことが必要ですという記載にするのも一つなのかなと思ったところです。

**(増田委員)**

協働の意識を高めていくことが必要ですとなると、その下の表現を少し変えるにしても、誤解されずに受け取られると思います。

**(佐々木会長)**

今の①とアの状態だときつくなるというか、市役所側の意向が誤解されて市民に伝わる可能性があると思いましたので、協働の意識を高めることが必要だということにして、平岡委員がおっしゃったように市と市民が、という風に分けなくてくっつけてやると、北野澤委員が違和感を感じた所がもしかするとすっきりするのではないかと思います。やはり分けてしまうと協働ではないのですよね。あとはウの所はどういう人をイメージしているのかわからないのですがどうでしょうか。

**(増田委員)**

自分達の活動がまちづくりを担っているという意識がない人もいると思います。まちづくりなんて大仰なことをやっているつもりはなく皆さんやられていると思うのですね。でもそれはまちづくりにつながっているのだとわかることは良いことだと思うので、そういうことを表現をするのにもう少し良い表現があるような気がします。

**(佐々木会長)**

そのような人たちという部分のそのような人たちはどういう人たちなのかなと。

**(平岡委員)**

そのような人たちを抜いてもつながりますよね。

**(佐々木会長)**

ウの所は、例えば①の文言を協働の意識を、とするならば、まちづくりを担っている意識というのは、協働の担い手であることの意識とするとつながるのではないかと思います。恐らく、あなたの活動はまちづくりに関わっているのですよと無理やり言いたいのではないと思います。まちづくりを担っているという意識がないまま参加しているということは否定できることではないのですね。活動していて、これがまちづくりなのだと思うなくても、目先のことを一生懸命やっているというのはそれはそれで良いのですね。それが実は重要な協働の担い手になっているのだということを意識してもらうことですね。

**(北野澤委員)**

最初に否定する文章から入っているの、最初にそういうことに参加することによってまちづくりに参加しているんだよ、と上と下を入れ替えることによって肯定的な言葉になるのかなと思います。

**(佐々木会長)**

そうですね、さすがですね。今、多くの方がそれぞれにまちづくりに参加していますが、それが重要な協働の担い手であることを意識するというで、否定しないで文章を作れば良いのではないかなということ、確かにその通りなのですね。何となくすっきりしてきたのではないかなと思います。特に課題の設定がすごく大事なので、ここは課題が市民の意識を高めることになると、以下の活動が全部市民の意識を変えるためとなるので、課題としては協働の意識を高めることが課題設定で、それを高めていくためにこのガイドラインがあると思います。この辺りの所で落ち着いたのではないかなと思います。さすがみんなですと良いですね。ということで現状と課題の所で課題の設定の一番上がやはり皆さん多く引っかかっていたので、ここの解決はできたのではないかなと思います。あとは市民の皆さんからパブリックコメントをいただくわけですが、前のほうから読んでいきますので、恐らくこの辺りの部分はたくさん出てくると思いますが、今日の修正を踏まえて、パブリックコメントを受けて変えていけば良いのかなと思います。ほかに皆さんの所で集中的に議論したいという所はありますか。逆に事務局の方からここを考えてほしいという所はありますか。

**(市民協働課長)**

よろしければ、先ほど増田委員がお話された11ページの配慮することという部分は大切になってきますので、④の部分の表現を少し詰めていただきたいと思います。まずここで特性と入れたのが、7ページのまちづくりに関わる主体の特性とまとめています。この所のお互いの立場の違いを尊重しながらというイメージで入れていたのですが、先ほど実際に活動される個々の方々の状況という部分も入ってきたほうが良いという中で、そこに組み合わせるか、プラスもう一つ項目として入れていくかというところです。

**(佐々木会長)**

大きく変える必要はないと思いますが、まちづくりに関わる主体の特性と入れているのと、11ページでお互いの特性と書くと、最初は組織間の主体の特性なのですが、お互いの特性となると、個人のパーソナルな特性と皆さん捉えたと思います。例えばそれぞれの主体の特性を理解しあってという文にすれば解決はします。

**(増田委員)**

そうすると、⑤に状況の違い等に配慮するとあるので、④は7ページの主体の特性ということがわかるような表現にするだけで良いと思います。お互いの特性というのが互いの事情と捉えてしまっていたので。

**(佐々木会長)**

やはり書いている側は組織間でやっているのですけれども、協働の進め方が、若干個人の取組になっているので、10ページの(3)を読んだ後に11ページの(4)を読むと個人と捉えてしまいます。場合によっては11ページの④をそれぞれの主体の特性を理解しあってゆるやかに、という形にして、⑤は先ほど意見が出たお互いの事情の違いに変えるということもあるかもしれませんね。増田委員どうでしょうか。

**(増田委員)**

10ページからのつながりで読むと、11ページの④は個人とは読めないのですが、ただ7ページの内容もここに取り入れていきたいとなれば、もう少し文言の整理というか、ここではこの事を伝え、この文章では主体となっている人達がお互いの特性を活かし協力し合うみたいなことを伝えたいというのを書き手が明確にわかって整理する必要があるかなと。もう一回読み直してみたいなと思いました。

**(佐々木会長)**

組織なのか人なのかということで、揺れる所は確かにあると思いますので、そこを最後にもう一度読み込んで、統一していく。無理に直さなくてもはっきりわかれば良いわけですね。そういう意味では11ページの(4)をもう一度読みましたが、協働をみんなで楽しみながら進めていくためのポイントです。という所が楽しければということでもなさそうですので、協働をみんなで楽しみながら、充実したものとするためのポイントぐらいにしておいたほうが、下の中身が楽しむとかゆるやかとかよりももう少し深いことを言っているような気がしますので、みんなで楽しみながら、充実したものとするためのポイントですぐらいにしたほうが良いかもしれませんね。ということで、これを全部見ていくと全部気になってくるのですけれども、皆さんが気になるポイントとしては3ページですが、3ページはだいぶ解決されたと思いますので、最後は11ページの協働を進めるうえで配慮することが、確かにセンシティブと言いますか、市民ということで出すと色々意見が出てくるのかなと思います。特に11ページは特性を整理することで良いと思います。①のゆるやかなつながりと風とおしの良い活動というのは、先ほど村上委員からも風とおしの良い活動って何だろうという意見が出ました。

**(増田委員)**

11ページの(4)協働を進めるうえで配慮することの所に、協働というのはよく整理して考えたら7ページの色々な地域コミュニティがあり、市があり、事業者があり、というこういう人達がある時に今回はこことつながるとか、そういう方の協働を言っているのだなと思いました。それが(4)の上の所でわかるようにすると良いかなと。10ページからの流れでいくと、ポイントのお互いを知るとかを読むと、まず地域同士でこういう事やってみないと話をして信頼関係をつなぐのは大事だなと読んできて、11ページになると、協働というのは初めて読む人にはそれがそれぞれの団体とつながることを書いているということがすんなりつながらないような気がします。私達は話し合ってきているのでわかるのですが、読んだ人が、協働はそれぞれの主体とうまく連携するということなのだと思いますが、そこがもう少しわかるように書くとその下がすんなり行くような気がします。

**(佐々木会長)**

9ページまで事例が出てきて、10ページから協働の進め方という所が、どちらかといえば協働の進め方というよりプロジェクトの進め方なのですよね。協働によるプロジェクトの進め方になっているので、場合によっては順番を変えてしまって、11ページの(4)を8ページの(2)の前に入れるのも手かなと思います。

**(増田委員)**

もしかするとそのくらいの方が、読んだ時の流れがつながるかもしれません。

**(佐々木会長)**

高橋課長の話聞いて私も思ったのですが、主体の特性の話をするのであれば、7ページの後ろに入れたほうが良いかもしれません。

**(増田委員)**

その後こういう具体的な例がありますというほうがすんなりつながっていくと思います。

**(佐々木会長)**

ページがどうしても余る場合は事例を2つほど足して、ページ数を調整して。確かに最初に北野澤委員が12ページからこの冊子のテイストが変わるとお話ししていたのが、もしかするとこの辺りとの違和感があったのかもかもしれませんね。

**(北野澤委員)**

先ほどの主体の話の中で、6ページには市民も含めた六つの丸があって、7ページにはまちづくりに関わる主体の特性ということで市民を除いた五つになっています。混乱してしまうのが、事業者の協働は当然あるだろうし、一般市民がその協働に参画していくという部分もあると思います。なので、7ページの主体の特性の中にも市民という項目が入ってくるべきなのではないかなと思います。8ページの協働のかたちに、これは市民も入ってきて、成田地区の防災教育活動は五つの主体が入っています、となってくるかなと思います。少し話が変わってしまうのですが、14ページの取組の中に、一番最初に市役所の取組があるのですけれども、今まで

の流れの中で、市民や団体があって、それをベースにというか、市はこんな形でバックアップしていますよということで、①は最後に来るのかなというイメージがあります。この2点です。

(佐々木会長)

なかなか市民の定義は難しいので、あまり触れないほうが良い所ではありますね。

(市民協働課長)

佐々木会長がおっしゃったとおり、あえて市民は外しています。

(佐々木会長)

仙台市で条例を作った時に、市民の定義を巡って否決されたことがあるように、難しいのですね。全てが市民なのですが、市外の人も重要になってきます。市民は個人のような形なので、そこは省いたとして、14ページの所ですね。①の場合によっては一番下に下げても良いのではないかとということで、あとはアイウエオカをひっくり返しても良いのではないかとという意見だったと思います。確かに①だけ堅くて、②以降はわかりやすいので、②を①にしていくという手はありまして、①を④にして、一番最後に協働のまちづくり推進審議会のことが出てくるぐらいでも良いのかなと思います。本当に非常に建設的な議論をしておりますけれども、だいぶ見えてきたのではないのでしょうか。大きな変更になってしまいましたが、順番を入れ替えるという中で、11ページの(4)はここに置いておくと違和感があるので、10ページの(3)協働の進め方を協働プロジェクトとするか、協働によるプロジェクトの進め方ぐらいにしておいて、その後に12ページの(5)市と協働する場合の活動範囲もプロジェクトの進め方なので、これとくっつけてしまって、(4)を7ページのまちづくりに関わる主体の特性の裏に持っていくと良いかなと。少しページをずらして協働のかたちがあって、その後に協働によるプロジェクトの進め方があると、こういうちみつプロジェクトをやりたい場合はこういう事を意識すれば良いのだということですね。そして、市と市民の協働の場合はこういった古くからある手法がありますよと。最後は堅くても良いと思うので、推進に向けての方針ということで、とみやを愛しの部分は漢字にしますけれども、方針があって、推進に向けた取組と来る、ということでいかがでしょうか。

ではだいぶ時間も過ぎてきて、議論はこのぐらいにしたいと思います。後は個別に私も相談に乗りますけれども、今の議論で大体パブリックコメントに出すたたき台は整ったのではないかと思います。パブリックコメントは非常に重要で、市民の人も自分事ですので、見てくれますので、きちんと対応しますし、出てきた意見に沿って受け止めていけば良いのかなと思います。パブリックコメントで本当はもっとどんどん出てくると良いのですが、日本はまだそうではないので、ぜひパブリックコメントを募集していますよと積極的に伝えていただければと思います。

では、以上で本日の審議会はすべて終了いたしました。本日委員の皆さまから頂戴した意見を十分に考慮し、私と事務局において指針案を調整し、委員の皆さんのご確認後にパブリックコメントの実施を進めてよろしいでしょうか。

※「異議なし」の声あり

**(佐々木会長)**

それでは、異議なしということでございますので、そのプロセスに従って、事務局のほうでまとめまして、皆さんにもう一度お送りしたいと思います。それから、最初にお話しましたが、通常はパブリックコメントで終わりなのですが、市民にとって大事なものですので、市民協働セミナーということで、これまた事務局に企画していただくことになると思いますけれども、そのプロセスを市のほうで踏んでいただけることになりました。市役所の皆様に感謝しなければいけないと思いますし、皆様もできるだけ、可能な限り揃ってきちんと作っていきたいと思いますのでどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは進行を事務局にお返しいたします。

**5 その他**

**(司会)**

佐々木会長、委員の皆さま、長時間に渡りまして、ありがとうございます。それでは、その他といたしまして、事務局から連絡がございます。

**(事務局)**

それでは、本日追加で配布させていただきましたA4 1枚の策定スケジュールをご覧ください。本日の審議会以降の予定についてご説明させていただきます。本日第2回審議会で指針案についてご審議いただいたところでございます。11月24日に市議会へ中間報告ということで、本日いただいた意見をとりまとめたものを、中間案として報告を予定しております。続きまして、11月25日から12月15日にかけて、指針案についてパブリックコメントを実施する予定でございます。12月下旬となっておりますが、先ほどお話しさせていただきましたとおり、12月22日、火曜日の午後の時間帯を予定させていただいております、市民協働セミナーということで、わくわくミーティングに参加いただいた方と審議会の委員の皆様を対象に開催して中間案の報告及びガイドラインの名前を決定していただく予定としております。その後、令和3年1月下旬に第3回の審議会ということで、審議会の皆様から答申をいただく予定としておりまして、こちらも1月下旬となっておりますが、1月28日木曜日、29日金曜日の辺りで調整中でございますので改めて通知を送らせていただければと思ひます。その後、2月下旬に市議会へ最終案について報告いたしまして、3月下旬に指針策定予定でございます。続きまして、先ほど指針案の説明の際にも申し上げましたが、8ページと9ページの事例紹介に係る原稿につきましてお願ひがございましたので、閉会後に少しお時間いただければと思ひます。以上でございます。

**6 閉会**

**(司会)**

それでは、閉会の挨拶を平岡会長職務代理者からいただきたいと思います。平岡会長職務代理者、お願ひします。

**(平岡職務代理者)**

皆様、ご苦勞様です。今まで皆さんと何回か集まって、今日は特にお一人お一人、佐々木会長の素晴らしい進行もございまして、色々な意見を聞くことができました。

毎回そうなのですけれども、同じような話でも深く色々な話が出て、中身が充実しているような話が聞けたり、すごく大切な会だったと思います。またこれからも、皆さんと一緒にまだまだ先がありますのでやっていきたいと思います。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。

以上